

**Netfinity マネージャー**

SA88-6554-00

**クイックガイド Version 5.2**



IBM

**Netfinity** マネージャー

SA88-6554-00

**クイックガイド Version 5.2**

お願い

本書の情報とそれによってサポートされている製品をご使用の際は、最初に65ページの付録B、『特記事項』に記載されている一般情報をお読みください。

## 第 1 版 (1998 年 8 月)

原 典	10L9272 Netfinity Manager 5.2 Quick Beginings
発 行	日本アイ・ピー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

本書について	vii
本書の対象読者	vii
<b>第1章 Netfinity の製品説明</b>	1
ロードマップ	3
本書の表記規則	4
<b>第2章 システム要件</b>	5
Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のシステム要件	5
Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のシステム要件	7
Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のシステム要件	9
<b>第3章 インストール・プログラムの始動</b>	11
Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のインストール・プログラムの始動	12
Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のインストール・プログラムの始動	13
Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のインストール・プログラムの始動	14
<b>第4章 Netfinity マネージャー・プログラムのインストール</b>	15
<b>第5章 Netfinity データベース・サポート</b>	23
DB2 データベースのサポート	24
システム要件	24
データベースのインストールと構成	25
データベースの活動化	27
データベース特権の付与と取消し	28
データベースの削除	32
OS/2 上のデータベースの削除	32
Lotus Notes データベースのサポート	33
システム要件	33
データベースのインストール	34
Netfinity Lotus Notes データベースのブラウズ	36

ODBC データベースのサポート	37
システム要件	37
ODBC データベースの構成	38
Netfinity テーブルの作成	40
サポート / 保証されるデータベース	44
<b>第6章 Netfinity の始動</b>	<b>47</b>
Netfinity サービス・マネージャー	48
Netfinity サービス・プログラムの説明	49
アラート・マネージャー	50
Alert on LAN 構成	50
キャパシティー・マネージャー	50
クラスター・マネージャー	51
クリティカル・ファイル・モニター	51
DMI ブラウザー	51
ECC メモリー・セットアップ	51
イベント・スケジューラー	52
ファイル転送	52
電源オン・エラー検出	52
事前障害分析	52
プロセス・マネージャー	52
RAID マネージャー	53
リモート・セッション	53
リモート・システム・マネージャー	53
リモート・ワークステーション制御	53
スクリーン・ビュー	54
安全保護マネージャー	54
シリアル接続制御	54
サービス構成マネージャー	54
システム管理	55
ソフトウェア・インベントリ	55
システム診断マネージャー	55
システム情報ツール	55
システム・モニター	56
システム区画アクセス	56
システム・プロファイル	56
Update Connector マネージャー	57
Web マネージャー構成	57

OS/2 システムでの Netfinity 始動の遅延 .....	58
付録A. インストール・オプション .....	59
自動インストール .....	59
カスタマイズしたインストール .....	61
付録B. 特記事項 .....	65
商標 .....	66
索引 .....	67





本書は、Netfinity マネージャーのインストールおよび開始に関する手順を説明しています。また、Netfinity の個々のサービスの使用方法についても説明しています。

## 本書の対象読者

本書は、ローカルおよびリモートのハードウェア・システム管理のためにNetfinity マネージャーをインストールし、使用する人を対象として書かれています。

本書を利用するには、お使いになるオペレーティング・システム、ネットワーク操作、およびデータベース機能に関する一般的な知識が必要になります。



# 第1章 Netfinity の製品説明

---

Netfinity は、ネットワークのハードウェア・システム管理機能を拡張するために設計された分散アプリケーションのグループです。Netfinity は、柔軟なモジュラー設計になっているため、多様なシステムに合わせてインストールすることができます。これらの各インストール構成は、一連の Netfinity サービス・プログラムを提供します。このサービス・プログラムを使用すると、ユーザーは各種の強力なハードウェア・システム管理機能および監視機能を、ローカルに実行することができます。

Netfinity マネージャー・プログラムは、強力なハードウェア・システム管理機能を提供し、これには Netfinity マネージャー・プログラムまたは Netfinity クライアントサービスの稼働する、ネットワーク上のすべてのシステムへのアクセスも含まれます。また、Netfinity マネージャー・プログラムには、すべての標準 Netfinity クライアントサービス機能に加えて、両方向のファイルおよびディレクトリー転送、リモートの画面収集、およびリモートのコマンドライン・セッションの各機能も備えられています。さらに、Netfinity マネージャー・プログラムの使用によって、ユーザーは、システム情報ツール、システム・プロファイル、ソフトウェア・インベントリ、およびシステム・モニターで収集したデータを、DB2、Lotus Notes、または SQL にエクスポートしたり、Open Database Connectivity (ODBC) データベースを介して DB2 にエクスポートすることもできます (ただし、ODBC エクスポートが利用できるのは、Windows NT システムの場合だけです)。さらに、Netfinity マネージャー・プログラムを使用すると、予定された日時にサービスを開始するようにして、システム管理を単純化し、自動化することができます。

Netfinity マネージャー・プログラムには、管理用システムのネットワークに接続していないシステムから、管理用システムのネットワーク内にある Netfinity マネージャー・システムおよびすべての Netfinity システムにアクセスすることを可能にする 2 つの強力な機能があります。

- シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、Netfinity マネージャー・システムのモデムを使用して、モデムを装備した他の Netfinity システムと接続することができます。接続した後は、そのリモート・システムが管理用システムのネットワークの一部を構成している場合と同様に、Netfinity マネージャー・プログラムは Netfinity サービスのすべての機能を利用できます。

- Netfinity マネージャー・プログラム (Web 用)

Netfinity マネージャー・プログラム (Web 用) を使用すれば、インターネット接続と World Wide Web (WWW) ブラウザーを備えたシステムを使用し、インターネットを介して Netfinity マネージャー・プログラムにアクセスし、リモート制御することができます。Netfinity マネージャー・プログラム (Web 用) を使用すれば、世界中のどこからでも Netfinity システムにアクセスし、管理することができます。

# ロードマップ

表1 に Netfinity を使用する前に参照すべき各章を示します。

表 1. ロードマップ

内容	参照すべき章
Netfinity をインストールする	15ページの第4章、『Netfinity マネージャー・プログラムのインストール』
本書について知る	viiページの『本書について』
インストール・オプションについて学習する	59ページの付録A、『インストール・オプション』
Netfinity データベース・サポートについて学習する	23ページの第5章、『Netfinity データベース・サポート』
システム要件について学習する	5ページの第2章、『システム要件』
Netfinity 製品全般を知る	1ページの第1章、『Netfinity の製品説明』
インストール・プログラムを始動する	11ページの第3章、『インストール・プログラムの始動』
Netfinity を開始する	47ページの第6章、『Netfinity の始動』

## 本書の表記規則

本書の表記規則は次のとおりです。

- |        |  |
|--------|--|
| 太字体    | 選択すべき項目の名前、あるいはコマンド名を示します。                   |
| イタリック体 | 新出の用語、本のタイトル、あるいは実際の値で置き換えられるべき変数の情報を示します。   |
| モノスペース | 例 (仮のパス名、またはファイル名など) あるいは、画面に表示されるテキストを示します。 |

Netfinity マネージャー・プログラムの最小のシステム要件は、オペレーティング・システムによって異なります。

- Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) をインストールする場合には、『Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のシステム要件』を参照してください。
- Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) をインストールする場合には、7ページの『Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のシステム要件』を参照してください。
- Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) を使用する場合には、9ページの『Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のシステム要件』を参照してください。

### Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) の最小のシステム要件は、下記のとおりです。

- OS/2 バージョン 3.0 またはそれ以降のバージョン
- 約 14.9 MB\* ~ 21.3 MB のハードディスク・スペース (必要なスペースは、システムの構成によって異なります)
- LAN アダプター・カード、および以下のうちの 1 つまたは複数の通信プロトコル
  - IBM TCP/IP for OS/2 バージョン 1.2 (Web 拡張機能の付いた Netfinity マネージャーでは、バージョン 2.0 またはそれ以降のリリースが必要です)
  - NetBIOS
    - 注: Netfinity の NetBIOS 要件は、3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。
  - IPX

---

\* ハード・ディスク・ドライブ容量の記述では、MB は約百万バイトを意味します。ユーザーが使用可能な総スペースは、操作環境によって異なります。

– SNA

Netfinity は、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム サポートする **SNA** スタック

**OS/2** IBM Communications Manager/2  
version 1.11

**Windows 95** PCOMM 4.1

**Windows NT**

- IBM Communications Server for Windows NT
- Microsoft SNA Server version 2.11 (サービス・パック 1 および 97/01/22 の日付またはそれ以降の WCPIC32.DLL が必要)。この DLL は、Microsoft より入手できます。

注: Netfinity マネージャー・プログラムを Microsoft SNA Server で使用する場合には、Microsoft SNA Server クライアントの稼働するシステムと通信することはできません。

Netfinity システムは、Microsoft SNA Server ソフトウェアの稼働するシステムのサーバー間の通信のみをサポートします。ただし、Microsoft SNA Server が稼働する Netfinity システムは、サポートする他の SNA スタックを使用する Netfinity システムと通信することが可能です。

- 9600 bps 以上の速度のモデム (任意選択)

注: シリアル接続制御は、モデムが正しくインストールされ、構成されていないシステムでは機能しません。



# Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) の最小のシステム要件は、次のとおりです。

- Microsoft Windows 95
  - 約 15 MB ~ 30.2 MB のハードディスク・スペース (必要なスペースは、システムの構成によって異なります)
  - LAN アダプター・カード、および次のうちの 1 つまたは複数の通信プロトコル
    - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 互換のもの、Web 拡張機能付き Netfinity マネージャー・プログラムで必要)
    - NetBIOS
- 注: Netfinity の NetBIOS 要件は、3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。
- IPX
  - SNA

Netfinity では、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム      サポートする **SNA** スタック

**OS/2**      IBM Communications Manager/2  
version 1.11

**Windows 95**      PCOMM 4.1

**Windows NT**      Microsoft SNA Server version 2.11 (サービス・パック 1 および 97/01/22 の日付またはそれ以降の WCPIC32.DLL が必要)。この DLL は、Microsoft より入手できます。

注: システムが Netfinity マネージャー・プログラムを Microsoft SNA Server で使用する場合には、Microsoft SNA Server クライアントが稼働するシステムと通信することはできません。Netfinity システム

は、Microsoft SNA Server ソフトウェアの稼働するシステムのサーバー間の通信のみをサポートします。ただし、Microsoft SNA Server で稼働する Netfinity は、サポートする他の SNA スタックを使用するシステムと通信することが可能です。

- 9600 bps 以上の速度のモデム (任意選択)

注: シリアル接続制御は、モデムが正しくインストールされ、構成されていないシステムでは機能しません。

# Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) の最小システム要件は、次のとおりです。

- Microsoft Windows NT バージョン 3.51 またはそれ以降のバージョン
- 約 15 MB ~ 30.2 MB のハードディスク・スペース (必要なスペースは、システムの構成によって異なります)
- LAN アダプター・カード、および次のうちの 1 つまたは複数の通信プロトコル
  - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 互換のもの、Web 拡張機能付き Netfinity マネージャー・プログラムで必要)
  - NetBIOS
- IPX
- SNA

注: Netfinity の NetBIOS 要件は、3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。

Netfinity では、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム      サポートする **SNA** スタック

**OS/2**      IBM Communications Manager/2  
version 1.11

**Windows 95**      PCOMM 4.1

**Windows NT**      Microsoft SNA Server version 2.11 (サービス・パック 1 および 97/01/22 の日付またはそれ以降の WCPIC32.DLL が必要)。この DLL は、Microsoft より入手できます。

注: Netfinity マネージャー・プログラムを Microsoft SNA Server で使用する場合には、Microsoft SNA Server クライアントが稼働するシステムと通信することはできません。  
Netfinity は、Microsoft SNA

Server ソフトウェアの稼働するシステムのサーバー間の通信のみをサポートします。ただし、Microsoft SNA Server で稼働する Netfinity システムは、サポートする他の SNA スタックを使用するシステムと通信することが可能です。

- 9600 bps 以上の速度のモデム (任意選択)

注: シリアル接続制御は、モデムが正しくインストールされ、構成されていないシステムでは機能しません。

注:

1. Netfinity をローカルまたはリモートで Windows NT で使用する全ユーザーが、システムへの管理者レベルのアクセス権限を持っていると、Windows NT システムを効果的に管理できます。
2. クラスター・マネージャーが稼働するのは、Microsoft Windows NT Workstation バージョン 4.0 サービス・パック 3 付きが稼働し、Microsoft Cluster Server (MSCS) 管理コンソールが導入されている場合だけです。MSCS は Microsoft Windows NT Server バージョン 4.0 Enterprise Edition に組み込まれています。MSCS 管理コンソールのインストール方法の説明については、Windows NT Server Enterprise Edition に付属している資料を参照してください。

## 第3章 インストール・プログラムの始動

---

Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版)、Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 版)、Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版)、および Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) の Netfinity インストール・プログラムはいずれも同じです。ただし、インストール・プログラムを開始する手順は、使用するオペレーティング・システムによって異なります。

- OS/2 を実行している場合には、12ページの『Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のインストール・プログラムの始動』を参照してください。
- Windows 95 を実行している場合には、13ページの『Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のインストール・プログラムの始動』を参照してください。
- Windows NT 3.51 または NT 4.0 を実行している場合には、14ページの『Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のインストール・プログラムの始動』を参照してください。

## Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のインストール・プログラムの始動

OS/2 を実行しているシステムで Netfinity マネージャー・プログラムのインストール・プログラムを開始するには、次のようにしてください。

1. OS/2 を使用して、コンピューターを始動します。
2. OS/2 全画面、または OS/2 ウィンドウ・セッションを開始します。
3. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
4. CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

たとえば、CD-ROM ドライブが D ドライブである場合には、コマンド・プロンプトに次のように入力します。

D:

そして、**Enter** キーを押します。

5. Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) のディレクトリーをアクティブ・ディレクトリーにします。

次のコマンドを入力します。

```
CD OS2¥MANAGER
```

そして、**Enter** キーを押します。

6. インストール・プログラムを始動します。

次のコマンドを入力します。

```
NETFINST
```

そして、**Enter** キーを押します。

インストールを完了するには 15ページの第4章、『Netfinity マネージャー・プログラムのインストール』を参照してください。

# Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) のインストール・プログラムの始動

Windows 95 を実行しているシステムで Netfinity マネージャーのインストール・プログラムを始動するには、次のようにしてください。

1. Windows 95 を使用して、コンピューターを始動します。
2. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. 「スタート」ボタンを選択します。
4. 「スタート」ボタン・メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選択します。
5. 次のコマンドを入力します。

```
x:¥WIN95¥MANAGER¥NETFINST
```

x には CD-ROM ドライブのドライブ名を指定してください。次に「OK」を選択します。

インストールを完了するには 15ページの第4章、『Netfinity マネージャー・プログラムのインストール』を参照してください。

# Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) のインストール・プログラムの始動

Windows NT 3.51 を実行しているシステムで Netfinity マネージャーのインストール・プログラムを始動するには、次のようにしてください。

1. Windows NT 3.51 を使用して、コンピューターを始動します。
2. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. プログラム マネージャから「アイコン」プルダウン・メニューを選択します。
4. 「ファイル」プルダウン・メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。
5. 次のコマンドを入力します。

```
x:¥WINNT¥MANAGER¥NETFINST
```

x には CD-ROM ドライブのドライブ名を指定してください。次に「OK」を選択します。

Windows NT 4.0 を実行しているシステムで Netfinity マネージャーのインストール・プログラムを始動するには、次のようにしてください。

1. Windows NT 4.0 を使用して、コンピューターを始動します。
2. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. 「スタート」ボタンを選択します。
4. 「スタート」ボタン・メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選択します。
5. 次のコマンドを入力します。

```
x:¥WINNT¥MANAGER¥NETFINST
```

x には CD-ROM ドライブのドライブ名を指定してください。次に「OK」を選択します。

インストールを完了するには 15ページの第4章、『Netfinity マネージャー・プログラムのインストール』を参照してください。



## 第4章 Netfinity マネージャー・プログラムのインストール

Netfinity マネージャー・プログラムをインストールするには、次のようにします。

1. Netfinity プログラム・ファイルのコピー元のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity プログラム・ファイルのあるドライブとディレクトリー名を、「インストール元ディレクトリー」フィールドに入力します。デフォルトは、Netfinity インストール・プログラムを始動したドライブとディレクトリーです。

2. Netfinity プログラム・ファイルのインストール先のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity プログラム・ファイルのコピー先のドライブ名とディレクトリー名を入力します。デフォルトは **C:¥NETFIN** (OS/2 を実行しているシステムの場合) または **C:¥WNETFIN** (Windows 95、または Windows NT を実行しているシステムの場合) です。



図 1. Netfinity インストール・プログラム

### 3. インストール・オプションを選択します。

Netfinity マネージャー・プログラムのインストール構成は 1 つしかありません。ただし、Netfinity インストール・プログラムには、いくつかのインストール・オプションがあります。各オプションを選択して、Netfinity の特別な機能を選択することができます。

選択できるインストール・オプションは、次のとおりです。

- システム管理サポート

このシステムにシステム管理サポートをインストールするには、「システム管理サポート」を選択します。

- キャパシティー・マネージャー

このシステムにキャパシティー・マネージャー・サービスをインストールする場合は、「キャパシティー・マネージャー」を選択します。

- リモート・ワークステーション制御

このシステムでリモート・ワークステーション制御サービスを使用可能にする場合は、「リモート・ワークステーション制御」を選択します。

- Update Connector マネージャー (NT 4.0、TCP/IP、および Web ブラウザーが必要)

Netfinity マネージャーを使って、クライアント・システムのシステムの更新 (IBM セレクション・サーバーから入手できるシステムの更新) を管理する場合は、「**Update Connector** マネージャー (**NT 4.0、TC/PIP、および Web** ブラウザーが必要)」を選択します。

- WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)

他の Netfinity システムの管理に使用し、WWW ブラウザを用いてリモートにアクセスし制御するシステムに、Netfinity マネージャーをインストールする場合は、「**WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)**」を選択します。

#### 4. Netfinity マネージャー・プログラムをインストールします。

インストール構成を選択した後、「インストール」を選択します。インストール・プログラムは、選択されたインストール構成に必要なすべてのプログラム・ファイルをコピーします。現在コピー中のファイル名とインストールが完了した割合を示すウィンドウが表示されます。

注: インストール・プロセスを中止するには、「取消」を選択します。

ネットワーク通信ドライバーと次の Netfinity サービス・プログラムがインストールされます。

- アラート・マネージャー
- Alert on LAN 構成 (Windows 95 以降または Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムのみ使用可能)
- キャパシティー・マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムのみ使用可能)
- クラスタ・マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムのみ使用可能)
- クリティカル・ファイル・モニター
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)
- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- イベント・スケジューラー
- ファイル転送
- 電源オン・エラー検出
- 事前障害分析 (PFA が使用可能なハード・ディスク・ドライブが必要)
- プロセス・マネージャー
- RAID マネージャー (RAID アダプターが必要)
- リモート・セッション
- リモート・システム・マネージャー
- リモート・ワークステーション制御
- スクリーン・ビュー
- 安全保護マネージャー
- シリアル接続制御
- サービス構成マネージャー
- システム管理
- サービス・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリー
- システム診断マネージャー
- システム情報ツール

- システム・モニター
- システム区画アクセス(システム区画が必要)
- Update Connector マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムのみ使用可能)
- システム・プロファイル
- Web マネージャー構成 (「Web 拡張機能」インストール構成の「Netfinity マネージャー・プログラム」のインストール構成が選択された場合のみインストールされる)

注: システムに ECC メモリー、システム区画、RAID アダプター、または PFA が使用可能なディスク・ドライブが存在するかどうかにかかわらず、ECC メモリー・セットアップ、システム区画アクセス、RAID マネージャー、および事前障害分析に関するグラフィカル・ユーザー・インターフェイス (GUI) のプログラム・ファイルがインストールされます。これにより、ネットワーク管理者は、ネットワーク内の他のシステムにあるこれらのサービスにリモート・アクセスできるようになります。ただし、サービスのローカル使用を可能にする基本プログラムは、必要なハードウェアまたはシステム構成が備わっていない場合はインストールされません。

#### 5. ネットワーク・ドライバーを構成します。

選択したインストール構成でネットワークへのアクセスが可能な場合は、システムでサポートされる通信プロトコルに関する情報を入力する必要があります。

「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウが表示されます。



図 2. Netfinity のインストール - 「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウ

次の手順に従い、システムの構成を続けます。

a. システム名を入力します。

システムの名前を「システム名」フィールドに入力します。この名前は、他の Netfinity マネージャー・プログラムのユーザーが、ネットワーク上でこのシステムを識別するために使用します。

b. ネットワーク・ドライバーを選択します。

「ネットワーク・ドライバー」フィールドに表示される使用可能なネットワーク・ドライバーから、いずれか 1 つを選択します。選択されたネットワーク・ドライバーにより、システムにネットワーク・アドレスが割り当てられます。

注:

- 1) 「ドライバー使用可能」チェック・ボックスの下に表示されるフィールドは、どのネットワーク・ドライバーを選択するかによって変わります。
- 2) IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを使用可能にしても、この名前は変更することができず、また画面にも表示されません。IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを選択した場合には、「ドライバー使用可能」チェック・ボックスの下のフィールドは表示されません。
- 3) NetBIOS ネットワーク・ドライバーを使用可能にする場合には、デフォルトのネットワーク・アドレスが選択され、「ネットワーク・アドレス」フィールドに表示されます。このデフォルトの名前を変更したい場合には、1 ~ 12 文字の任意のアドレスを入力することができます。ただし、このアドレスは、システムに固有のものでなければなりません。この NetBIOS アドレスが、同じネットワーク上にある他のシステムの NetBIOS アドレスと同一であると、Netfinity を正しく開始することができません。
- 4) シリアル Netfinity ドライバーを使用可能にする場合には、固有のマシン・ダイヤルアップ名でシステムを識別しなければなりません。この名前は 30 バイトまでの長さで指定できますが、システムに固有のものでなければなりません。この名前が固有でないと、リモートの Netfinity マネージャー・プログラムはシリアル接続制御サービスを使用してシステムにアクセスすることができません。

c. ネットワーク・ドライバーを使用可能にします。

必要な情報をすべて入力した後で、「ドライバー使用可能」チェック・ボックスを選択して、始動時にドライバーがアクティブになるようにします。

複数のネットワーク・インターフェースをシステムでサポートしている場合には、手順 b と c を繰り返して、さらにネットワーク・ドライバーを追加することができます。

d. システム・キーワードを指定してシステムを識別します (任意選択)。

リモート・システム・マネージャーの検索処理を十分に活用できるようにするために、任意の記述的なシステム・キーワードによってユーザーのシステム (およびネットワーク内の各 Netfinity システム) を識別することができます。該当の「システム・キーワード」フィールドにこれらのキーワードを入力してください。

e. Netfinity オプションを選択します (任意選択)。

「Netfinity オプション」ウィンドウには、Netfinity のネットワーク操作に影響を与える特別なオプションがあります。使用可能なオプションには、次のものがあります。

- 「強制リモート・ログオン」

「強制リモート・ログオン」オプションを使用可能にすると、リモート・システムにアクセスするときに使用するユーザー ID とパスワードの組合せを保管することができません。このため、リモート・システムにアクセスするたびに、手作業でログオンしなければなりません。

- 「サービス実行アラート」

「サービス実行アラート」オプションを使用可能にすると、Netfinity サービス・マネージャーは、Netfinity サービスがリモート・ユーザーによって開始されるたびに、Netfinity アラートを生成します。このアラートには、実行されたサービスの名前と、そのサービスを開始したユーザーに関する情報が含まれています。

- 「サポート・プログラムの表示」

「サポート・プログラムの表示」オプションを使用可能にすると、Netfinity サポート・プログラム (ネットワーク・インターフェース) は、画面下部に最小化アイコンとして表示されるか (Windows 3.1、または Windows NT 3.51 の場合)、Windows NT 4.0 または Windows 95 のタスクバー、あるいは OS/2 のタスク・リストに最小化プロセスとして表示されます。これにより、ユーザーは Netfinity サポート・プログラムを遮断できるようになります。Netfinity サポー

ト・プログラムをユーザーから隠しておきたい場合には、このオプションを使用可能にしないでください。

- 「画面アクセスにはユーザーの認可が必要」

「画面アクセスにはユーザーの認可が必要」オプションを使用可能にすると、リモート・ユーザーは、許可を得ずにシステム上の「リモート・ワークステーション制御」や「画面表示」を使用することができなくなります。このオプションが使用可能なときに、リモート・ユーザーがシステム上のこれらのサービスのいずれかを使用しようとする、デスクトップにウィンドウが表示され、リモート・ユーザーが「リモート・ワークステーション制御」サービスや「画面表示」サービスの使用を試行していることを知らせ、当該ユーザーにサービスの使用を許可するかどうかを尋ねてきます。「はい」、「いいえ」のいずれかを選択してください。15 秒以内に選択しなかった場合 (アクセスの試行時に離席していたなど)、Netfinity がリモート・ユーザーによるサービスの使用を自動的に拒絶します。

使用可能な Netfinity オプションの 1 つまたは複数を使用するには、次の手順に従ってください。

- 1) 「オプション...」を選択します。
- 2) 使用可能にしたい Netfinity オプションを選択します。
- 3) 「了解」を選択します。

- f. ネットワーク・タイムアウト値を選択します (任意選択)。

「ネットワーク・タイムアウト」フィールドには、Netfinity が応答しないリモート・システムに対し、通信を試みる秒数を表示します。設定時間内にリモート・システムとの接続が確立できないと、Netfinity は通信の試行を取り消します。ネットワーク・タイムアウトのデフォルトは 15 秒です。通常は、このデフォルト設定を変更する必要はありません。

- g. 構成を保管して続行します。

「保管」を選択して、構成を保管します。その後、「終了」を選択して、次に進みます。

注: この構成は、Netfinity フォルダーから「ネットワーク・ドライバー構成」オブジェクトを選択することで、インストール終了後にも変更することができます。

6. ネットワーク・アクセス用のシステム構成を完了すると、インストール・プログラムが、システムの構成ファイルに必要な変更のリストを表示し、それらを変更するかどうかを尋ねてきます。たとえば、Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版および Windows 95 版) をインストールしている場合には、インストール・プログラムは CONFIG.SYS および AUTOEXEC.BAT ファイルに必要な変更のリストを表示します。

「はい」 または 「いいえ」 を選択することができます。

注: Netfinity を正しく作動するためには、システム構成にこれらの変更を行う必要があります。

- 「はい」 を選択した場合には、システム構成が自動的に変更されます。
- 「いいえ」 を選択した場合には、後で変更を追加できるように、宛先ディレクトリーに CONFIG.NEW (および、場合によっては AUTOEXEC.NEW) という名前で保管されます。

7. これでインストールが完了しました。システム構成の変更を有効にするために、システムを遮断してから再始動する必要があります。



## 第5章 Netfinity データベース・サポート

---

Netfinity は、大量のシステム固有データを収集し、Netfinity データベースにエクスポートする機能をサポートしています。Netfinity データベースは、DB2、Lotus Notes、または Microsoft SQL を使用して、データベース管理システム上に生成できます。Microsoft SQL は ODBC を介してサポートされており、Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版、Windows 95 版、Windows NT 版) が稼働しているシステムで利用できます。システムが ODBC をサポートしている場合には、ODBC を介して DB2 データにアクセスし、エクスポートすることができます。Netfinity マネージャー・プログラムと共にこれらのデータベースの 1 つまたは複数 がインストールされていれば、次の Netfinity サービスからデータをエクスポートすることができます。

- アラート・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリー
- システム情報ツール
- システム・プロファイル
- システム・モニター

データベース・エクスポートのサポートをインストールし、構成する方法の詳細については、以下を参照してください。

- DB2 データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合には、24ページの『DB2 データベースのサポート』を参照してください。
- Lotus Notes データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合には、33ページの『Lotus Notes データベースのサポート』を参照してください。
- ODBC データベース・エクスポートのサポートをインストールする場合には、37ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

## DB2 データベースのサポート

DB2 データベース・エクスポートのサポートは、Netfinity マネージャーのインストール時に自動的に構成されます。ただし、データベース・システム自体はユーザーが構成しなければなりません。データベースを構成するための手順を次に示します。

ファイルへの生データのダンプも可能です。このダンプはデータベースがなくても実行することができます。

### システム要件

Netfinity データベース・エクスポートのための最小要件は、次のとおりです。

- Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) の場合
  - DB2 クライアントのバージョン (44ページの表2 を参照のこと。)
  - DB2 のバージョン (44ページの表2 を参照のこと。)
- Netfinity マネージャー (Windows 95 版) の場合
  - DB2 クライアント (Windows 95 版) (44ページの表2 を参照のこと。)
  - DB2 のバージョン (44ページの表2 を参照のこと。)
- Netfinity マネージャー (Windows NT 版) の場合
  - DB2 クライアント (Windows NT 版) (44ページの表2 を参照のこと。)
  - DB2 のバージョン (44ページの表2 を参照のこと。)

#### 重要:

サポートされていないバージョンの DB2 または DB2 クライアントを、Netfinity データベース・サポートで使用すると、予測できない結果を引き起こし、システムが停止する恐れがあります。

一般的な要件およびサポートされるプロトコルについては、「DB2 導入の手引き」を参照してください。

## データベースのインストールと構成

DB2 データベースをインストールし、構成するには、次の手順を実行します。

注: OS/2 を使用する場合には、26ページの『OS/2 へのデータベースのインストール』を参照してください。

1. DB2 コマンド・ウィンドウを開始します。

注: DB2 が始動していない場合には、DB2 データベース・マネージャーを始動します。

2. 次のコマンドを入力してください。

```
DB2 CREATE databasename ON d
```

各パラメーターは、次のとおりです。

- *databasename* にはデータベース名を指定します。
- *d* にはデータベースのインストール先のドライブを指定します。

3. **Enter** キーを押します。

4. 次に、ODBC データベース・サポートのためにテーブルを構成する必要があります。これにより、テーブルは構成可能になります。ODBC データベースの構成については、38ページの『ODBC データベースの構成』を参照してください。テーブルの作成については、40ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

5. 最後に、データベースをバインドする必要があります。データベースのバインドについては、27ページの『データベースの活動化』を参照してください。

## OS/2 へのデータベースのインストール

1. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します (この例ではドライブ D ですが、実際のドライブ名はご使用のシステムにより異なります)。
2. OS/2 全画面、または OS/2 ウィンドウ・セッションを開始します。
3. CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力し、**Enter** キーを押します。

4. OS/2 コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB CREATE /DBNAME=dbname /DRIVE=d
```

*dbname* にはユーザーのデータベースの名前を指定し、*d* にはデータベースのインストール先のドライブを指定します。

注: このデータベースの一部がすでに存在している場合、ユーティリティー・プログラムはデータベースのうちの欠落している部分だけを作成します。

5. **Enter** キーを押します。

## データベースの活動化

データベースへの接続、バインド、および特権の付与は、次のようにします。

1. データベースに接続します。

- a. DB2 コマンド・ウィンドウを開始します。
- b. 次のコマンドを入力してください。

```
DB2 CONNECT TO databasename
```

*databasename* には実行時に指定したデータベースの名前を指定してください。

- c. **Enter** キーを押します。

2. パッケージとデータベースをバインドします。

バインド・ファイルに保管する SQL ステートメントを準備し、データベースにパッケージを保管するには、Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版)、Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版)、または Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) をインストールし、次の手順を実行してください。

- a. DB2 コマンド・ウィンドウを始動します。
- b. DB2 コマンド・ウィンドウから、次のコマンドを実行します。

```
DB2 BIND x:¥directory¥DB2SQLC0.bnd
```

*x:¥directory* には、Netfinity がインストールされているドライブとディレクトリーの名前を指定します。

- c. **Enter** キーを押します。

## データベース特権の付与と取消し

データベース特権の付与または取消しは、次のようにします。

注: OS/2 を使用する場合には、30ページの『OS/2 システムでのデータベース特権』を参照してください。

1. DB2 コマンド・ウィンドウを開始します。

注:

- a. DB2 が始動していない場合には、DB2 データベース・マネージャーを始動します。
- b. DB2 Netfinity データベースに接続していない場合は、接続してください。

2. 次のコマンドを入力してください。

```
DB2 GRANT privilegecode ON TABLE tablename TO userid
```

各パラメーターは、次のとおりです。

- *privilegecode* には、次の特権コードのいずれか 1 つを指定します。
  - ALL
  - ALL PRIVILEGES

注: CONTROL 以外のすべての可能なデータベース特権を付与します。

- ALTER
- CONTROL
- DELETE
- INDEX
- INSERT
- REFERENCES
- SELECT
- UPDATE

- *tablename* には、データベースのインストール時に指定したデータベースの名前を指定します。Netfinity データベース・テーブル名のリストは、*Netfinity マネージャー・ユーザーズ・ガイド* (付録 H:Netfinity リレーショナル・データベース・テーブル) に記載されています。

注: また、Netfinity データベース管理ツールを使用して、データベース特権の付与または取消しを行うこともできます。データベース管理ツールの使用については、40ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

- *userid* には、アクセスを付与するユーザー ID を指定します。

3. **Enter** キーを押してコマンドを実行します。

特権を取り消すためには、コマンドラインで GRANT の代わりに REVOKE を指定してください。

## OS/2 システムでのデータベース特権

1. Netfinity がデータベースにアクセスできるようにするために、GRANT EXECUTE コマンドを使用します。

OS/2 コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
DB2 GRANT EXECUTE ON PACKAGE NETFIN.DB2SQLC0 TO PUBLIC
```

そして、**Enter** キーを押します。

注: PUBLIC を指定することも、特定の管理者システムだけを許可することもできます。データベースへのアクセスを制限する場合には、PUBLIC の代わりに管理用システムの許可名を指定します。

2. CONNECT RESET コマンドを使用して、現行ユーザーをデータベースから切り離します。

OS/2 コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
DB2 CONNECT RESET
```

そして、**Enter** キーを押します。

3. NETFINDB GRANT コマンドを使用して、データベース特権を付与 (または取消し) します。

データベース特権の付与または取消しを行うためには、次のようにします。

- a. Netfinity CD を CD-ROM ドライブに挿入します (この例ではドライブ D ですが、実際のドライブ名はご使用のシステムにより異なります)。
- b. CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力し、**Enter** キーを押します。



c. 次のコマンドを入力してください。

```
NETFINDB GRANT /ID=id PUBLIC /DBNAME=databasename  
/PRIV=privilegecode
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- *id* には、アクセスを付与するユーザー ID を指定します。
- *databasename* には NETFINDB の実行時に指定されたデータベースの名前を指定します。
- *privilegecode* には、次の特権コードのいずれか 1 つを指定します。
  - ALL
  - ALTER
  - CONTROL
  - DELETE
  - INDEX
  - INSERT
  - REFERENCES
  - SELECT
  - UPDATE

d. **Enter** キーを押してコマンドを実行します。

注: PUBLIC を指定することも、特定の ID またはグループ名だけを許可することもできます。Netfinity マネージャーの更新プログラムは、DB2SQLC0 パッケージを使用し、特定のテーブル特権を必要としません。

特権を取り消すためには、コマンドラインで GRANT の代わりに REVOKE を指定してください。

Netfinity を構成し、DB2 上で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するには、37ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

管理者用システムでこのデータベースをカタログします。

管理者がリモート・データベースを使用している場合には、データベースが置かれているノードをカタログし、さらにそのノードにデータベースをカタログしてください。

この手順を完了すると、Netfinity データベースの名前がシステム情報ツールの「データベース選択」ウィンドウに表示されます。

## データベースの削除

データベースを削除するには、次のようにします。

注: OS/2 を使用する場合には、『OS/2 上のデータベースの削除』を参照してください。

1. DB2 コマンド・ウィンドウを開始します。

注: DB2 が始動していない場合には、DB2 データベース・マネージャーを開始します。

2. 次のコマンドを入力します。

```
DB2 DROP DATABASE databasename
```

*databasename* にはデータベースのインストール時に指定したデータベースの名前を指定します。

3. **Enter** キーを押します。

## OS/2 上のデータベースの削除

1. データベース・サーバーの CD-ROM ドライブに、Netfinity マネージャー・プログラムの CD を挿入します (この例では E ドライブを使用)。

2. OS/2 全画面、または OS/2 ウィンドウ・セッションを開始します。

3. CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

E: と入力し、**Enter** キーを押します。

4. OS/2 プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB DELETE /DBNAME=databasename
```

*databasename* には NETFINDB 実行時に指定したデータベースの名前を指定します。

5. **Enter** キーを押します。

Netfinity を構成し、DB2 上で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するには、37ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

## Lotus Notes データベースのサポート

Netfinity マネージャーで、システム・データを Lotus Notes データベースにエクスポートできるようにするには、次のことを行う必要があります。

1. Lotus Notes サーバーに、Netfinity データベース・テンプレートをインストールします。
2. Netfinity マネージャーで、Lotus Notes サーバーへのエクスポートを使用可能にします。

Lotus Notes データベース・テンプレートをインストールし、Netfinity マネージャーで Lotus Notes データベースを使用可能にするための手順を次に示します。

### システム要件

Netfinity Lotus Notes データベース・エクスポートのための最小要件は、次のとおりです。

- Lotus Notes (44ページの表2 を参照)
- Lotus Notes クライアント (44ページの表2 を参照)

一般的なシステム要件およびサポートされる通信プロトコルについては、「Notes 管理者の手引き」を参照してください。

## データベースのインストール

Netfinity で、Lotus Notes データベースへのシステム・データのエクスポートを使用可能にするには、最初に Lotus Notes サーバーに Netfinity データベース・テンプレートをインストールしなければなりません。Lotus Notes データベース・テンプレート・ファイル (ファイル名は、NETFINDB.NTF) は、Netfinity マネージャー・プログラムのインストール時に Netfinity プログラムのディレクトリーにコピーされています。Lotus Notes サーバーにデータベース・テンプレートをインストールするには、次のようにします。

1. NETFINDB.NTF ファイルを Netfinity プログラムのディレクトリーから Lotus Notes サーバーの Notes データ・ディレクトリーにコピーします。
2. サーバーで Lotus Notes を開始します。
3. Notes の「ファイル」プルダウン・メニューから「データベースの新規作成」を選択します。  
これにより、「データベースの新規作成」ウィンドウが表示されます。
4. 「テンプレート」選択リストから「Netfinity データベース」を選択します。
5. 「テンプレートを引き継いで設計」チェック・ボックスを選択します。  
これにより、Netfinity の将来のリリースにおける変更を、自動的にこの Netfinity データベースに適用することができます。
6. 「サーバー」選択リストから「ローカル」を選択します。  
注: リモート・サーバーにデータベースをインストールする場合には、サーバーリストからリモート・サーバーの名前を選択します。
7. 「ファイル名」フィールドに次のように入力します。  
NETFINDB.NSF
8. 「データベース名」フィールドに次のように入力します。  
Netfinity Database
9. データベースを作成するために「新規」を選択し、「データベースの新規作成」ウィンドウをクローズします。

10. Lotus Notes のワークスペースで Netfinity データベース・アイコンを選択します。
11. 「ファイル」プルダウン・メニューから「データベースの管理」を選択します。
12. 「データベースの管理」プルダウン・メニューから「アクセス制御...」を選択します。
13. このデータベースにデータをエクスポートするすべての Netfinity マネージャーのアクセス・レベルを「編集者」に設定します。
14. 「文書を削除できる」チェック・ボックスを選択します。
15. 「OK」を選択します。

Lotus Notes データベースをインストールしたあとで、Netfinity マネージャーで Lotus Notes サーバーへのエクスポートを使用可能にする必要があります。

- Netfinity マネージャー・システムが Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) を実行している場合には、CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH、PATH、および DPATH ステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていることを確認してください。これらのステートメントに Lotus Notes ディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースをエクスポートすることができません。
- システムが Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) を実行している場合には、Windows NT のシステム環境変数に Lotus Notes のディレクトリーが含まれていることを確認してください。
- システムが Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版) を実行している場合には、AUTOEXEC.BAT ファイルの PATH ステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていることを確認してください。これらのステートメントに Lotus Notes ディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースをエクスポートすることができません。

上記の手順を完了すると、ブラウザが容易な Lotus Notes データベースに Netfinity からのシステム情報をエクスポートできるようになります。

## Netfinity Lotus Notes データベースのブラウズ

Netfinity Lotus Notes データベースに含まれるデータをブラウズするには、次のようにします。

1. Lotus Notes のワークスペースで「Netfinity データベース」オブジェクトをオープンします。
2. 「表示」プルダウン・メニューから、Netfinity データベース内のブラウズしたいセクションを選択します。

Netfinity データベースは、特定の Netfinity サービスによって収集されたデータを含む複数のセクションに分割されています。表示したいデータを収集するサービスの名前を選択してください (たとえば、アラート・ログ)。

注: 一部のメニュー項目には、サブメニューが含まれています。

3. Netfinity データベースの選択した部分に含まれる情報のリストが、ウィンドウに表示されます。表示されたデータ項目の詳細を見たい場合は、データ項目をダブルクリックしてください。
4. 一部のデータ項目は、追加情報を示すために展開することができます。これらの項目は、「Notes」ウィンドウのデータ項目名の横にある左サイド・ボーダーにプラス記号 (+) で示されます。データ項目を展開するには、項目を選択し、次に「表示」プルダウン・メニューから「展開」を選択します。

## ODBC データベースのサポート

Netfinity は、SQL または DB2 データベース・システムを使用するために、ODBC を介したデータのエクスポートをサポートしています。

注： ODBC データベース・エクスポートは、Netfinity マネージャー・プログラムが稼働しているシステムでのみ使用できます。

### システム要件

Netfinity ODBC データベース・エクスポートのための最小要件は、次のとおりです。

- Windows NT (44ページの表2 を参照)
  - ODBC (44ページの表2 を参照)
  - ODBC は、次のデータベース管理システムをサポート (DBMS については44ページの表2 を参照)。
    - IBM DB2
    - Microsoft SQL Server
- Windows 95:
  - ODBC (44ページの表2 を参照。)
  - ODBC は、次のデータベース管理システムをサポート (DBMS については44ページの表2 を参照)。
    - IBM DB2
    - Microsoft SQL Server
- OS/2 (44ページの表2 を参照。 )
  - Microsoft SQL Server (Microsoft SQL Server によって提供される Visigenic ドライバーを使用すること)  
または
  - IBM DB2

注： ODBC データベースの名前は、8 文字 (バイト) を超えてはなりません。

## ODBC データベースの構成

この項では、Netfinity が ODBC を使用して Netfinity データベース・テーブルを作成可能になる前に、ユーザーが完了しておく必要がある手順について説明します。

1. NETFIN ID を定義して、Netfinity データベース管理が、NETFIN というテーブル修飾子の Netfinity データベース・テーブルを作成できるようにします。

**警告:** NETFIN は限定されたユーザー ID です。使用后、パスワードが Netfinity のデータベース管理によって保持されることはありません。この ID をエクスポートに使用しないでください。

**注:**

- a. OS/2 および Windows 95 では、NETFIN にはデータベースのオーナーであるか、または管理者特権を与えられている必要があります。
- b. Windows NT では、DB2 へのエクスポート時は、NETFIN にはデータベースのオーナーであるか、または NT の「ドメイン・ユーザー・マネージャー」または「ユーザー・マネージャー」によってシステム管理者として定義されている必要があります。

Windows NT では、MS SQL へのエクスポート時は、NETFIN にはデータベースのオーナーであるか、または **テーブル作成権** を与えられている必要があります。

2. データベースを NETFIN ID と適切な関係で作成します。
3. オペレーティング・システム、またはデータベースと共に出荷される ODBC ツールを使用して、ODBC サービスのデータベースを作成します。



4. Windows NT では、Netfinity サポート・プログラムを構成し、ODBC データベースを使用してデータをエクスポートします。
    - a. 「コントロール・パネル」で、「サービス」をオープンします。
    - b. 「サービス」フィールドから「**Netfinity** サポート・プログラム」を選択し、「スタートアップ ...」を選択します。
    - c. 「スタートアップの種類」ボタン・グループから「自動」を選択します。
    - d. 「ログオン」フィールド・グループで「アカウント」を選択します。「アカウント」フィールドで、ODBC サービスを所有するアカウントのユーザー名を入力します。
    - e. 「OK」を選択します。
- 注: イベント・スケジューラーか、あるいはアラート・マネージャーが ODBC を用いてデータをエクスポートする場合には、イベント・スケジューラーがデータをエクスポートしている間、ODBC サービスを所有する ID でログオンし続けている必要があります。

## Netfinity テーブルの作成

Netfinity がデータをエクスポートするために必要となるテーブルを作成するには、次のようにします。

1. Netfinity データベース管理サービスをオープンします。

Netfinity データベース管理サービスは Netfinity プログラム・グループに含まれています (図3を参照)。このアイコンをオープンし、「Netfinity データベース管理」ウィンドウをオープンしてください。



図 3. OS/2 Warp バージョン 4.0 システム上の Netfinity プログラム・グループ

2. DBMS を選択します。

「**DBMS の選択**」リストから、Netfinity がデータのエクスポートに使用する DBMS の名前を選択してください。



図 4. 「Netfinity データベース管理」ウィンドウ

3. データベースに Netfinity テーブル・グループを作成するには、「作成」を選択してから「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンしてください (41ページの図4 を参照)。

以下のテーブル・アクションが使用可能です。

- 削除

データベースから Netfinity テーブル・グループを削除するには、「削除」を選択してから「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンしてください。

- 付与

指定されたユーザー ID にデータベースへのアクセスを許可します。アクセス権を付与するには次のようにしてください。

- a. 「付与」を選択します。
- b. 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを許可するユーザー ID を入力します。
- c. この ID に付与する特権を選択します。

デフォルトとして、すべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データベースにデータをエクスポートするためには、ユーザー ID がこれらすべての特権を持っていないとなりません。

- d. 「了解」を選択して「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

- 取消し

指定されたユーザー ID がデータベースにアクセスすることを禁止します。取消しを行うには次のようにしてください。

- a. 「取消し」を選択します。
- b. 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを取り消すユーザー ID を入力します。
- c. この ID から取り消される特権を選択解除します。

デフォルトとして、すべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データベースにデータをエクスポートするためには、ユーザー ID がこれらすべての特権を持っていないとなりません。

ん。これらの中のいくつかの、あるいはすべての特権を取り消しできます。

d. 「了解」を選択して「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

4. テーブル・グループが作成されるデータベースを選択します。

5. 「OK」を選択します。

「Netfinity データベース・アクセス」ウィンドウがオープンします。

6. 「ユーザー ID」フィールドに次のように入力します。

```
netfin
```

*netfin* は、Netfinity データベースの修飾名です。

7. Netfinity データベースへアクセスできるパスワードを「パスワード」フィールドに入力します。

8. 「OK」を選択します。

入力した情報が処理されている間、“テーブルの作成中”という状況メッセージが表示されます。操作が完了すると、“要求された処理が完了しました”というメッセージが表示されます。

## サポート / 保証されるデータベース

次の表に、現行リリースの Netfinity マネージャー・プログラムの稼働が保証されているデータベースとオペレーティング・システムを示します。

表 2 (1/2). サポートされる Netfinity データベース。 . オペレーティング・システムとデータベース・クライアントのバージョンで参照のこと。

製品	Windows 95	Windows NT 3.51	Windows NT 4.0	OS/2 Warp Connect	OS/2 Warp 4.0
IBM DB2 Version 2.1.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
ODBC - IBM DB2 Version 2.1.2	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver
ODBC - IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver	Yes, DB2 Driver
ODBC - Microsoft SQL Version 6.0	Yes, Microsoft SQL Driver	Yes, Microsoft SQL Driver	Yes, Microsoft SQL Driver	Yes, Visigenic Driver Version 1.10	No
ODBC - Microsoft SQL Version 6.5	Yes, Microsoft SQL Driver	Yes, Microsoft SQL Driver	Yes, Microsoft SQL Driver	No	No
Lotus Notes Version 4.5.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes Version 4.5.3a	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes Version 4.6	Yes	No	Yes	No	No
Lotus Notes Version 4.6a	Yes	No	Yes	No	No

表 2 (2/2). サポートされる Netfinity データベース。 . オペレーティング・システムとデータベース・クライアントのバージョンで参照のこと。

製品	Windows 95	Windows NT 3.51	Windows NT 4.0	OS/2 Warp Connect	OS/2 Warp 4.0
Oracle Version 7.3	Yes, Oracle Driver Version 2.0.3.1.1	Yes, Oracle Driver Version 2.0.3.1.1	Yes, Oracle Driver Version 2.0.3.1.1	No	No
Oracle Version 8.0	Yes, Oracle Driver Version 8.0.3.0.0	No	Yes, Oracle Driver Version 8.0.3.0.0	No	No
Sybase SQL Version 11.0	Yes, Sybase Driver Version 10.0.3T4	Yes, Sybase Driver Version 10.0.3T4	Yes, Sybase Driver Version 10.0.3T4	No	No

注: 上記は Netfinity バージョン 5.2 に適用されます。





Netfinity を始動するには、次のようにします。

1. Netfinity フォルダーまたはプログラム・グループをオープンします。

Netfinity マネージャーのインストール時に、Netfinity フォルダー(OS/2、Windows 95、または Windows NT 4.0 のみ) または Netfinity プログラム・グループ (Windows NT 3.51 のみ) が、デスクトップに追加されます。Netfinity フォルダーまたは Netfinity プログラム・グループには、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトが含まれています。



図 5. 「Netfinity フォルダー」

注:

- a. Netfinity フォルダーまたは Netfinity プログラム・グループには、「はじめに」という文書オブジェクトが入っています。この文書には、お手持ちの資料には記載されていない Netfinity 関連情報が含まれています。
- b. Netfinity フォルダーには、ネットワーク・プロトコルとシステム・キーワードの再構成に使用できる「ネットワーク・ドライバ構成」オブジェクトと、Netfinity データベース内のすべてのデータ・テーブルをオンラインで簡単に参照するための「Netfinity データベース・テーブル」オブジェクトも含まれています。Netfinity のデータベース・サポートについては、23ページの第5章、『Netfinity データベース・サポート』を参照してください。

- c. Netfinity フォルダーには、Netfinity データベース管理オブジェクトも含まれています。Netfinity データベース管理を使用して、Netfinity データベース・サポートを構成することができます。データベース管理の詳細については、*Netfinity マネージャー・クイックガイド*の“ODBC データベース・サポート”を参照してください。

## 2. Netfinityサービス・マネージャーを始動します。

Netfinity サービス・マネージャーを始動するには、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトをマウス・ボタン 1 でダブルクリックします。

# Netfinity サービス・マネージャー

システムでサポートされるすべての Netfinity サービスは、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウから始動されます。使用可能なサービスは、インストール時に選択したインストール構成によって異なります。



図 6. Netfinity サービス・マネージャー

「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウに表示されている Netfinity サービスのいずれかを始動するには、そのサービス・プログラムのアイコンをダブルクリックします。リモート・システムの Netfinity サービスを始動するには、リモート・システム・マネージャー・サービスを使用します。

## Netfinity サービス・プログラムの説明

各 Netfinity サービス・プログラムは、基本プログラムとグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) で構成されます。サービス基本プログラムによって、リモートの Netfinity マネージャーから個々のサービス・プログラムにアクセスすることができますが、ローカル・アクセスはできません。サービス GUI が、それぞれ基本プログラムと共に機能している場合には、ユーザーはサービスにアクセスすることができます。

一部のサービスには、特定のシステム構成を持つシステムだけで使用可能です。このようなサービスには次のものがあります。

- Alert on LAN 構成 (Windows 95 以降または Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムでのみ使用可能)
- キャパシティー・マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムでのみ使用可能)
- クラスタ・マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムでのみ使用可能)
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)
- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- 事前障害分析 (PFA) (PFA 利用可能ハードディスク・ドライブが必要)
- RAID マネージャー (RAID ハードディスク・ドライブ・サブシステムが必要)
- システム区画アクセス (必ずシステム区画が組み込まれていること)
- Update Connector マネージャー (Windows NT 4.0 以降の稼働するシステムでのみ使用可能)

各 Netfinity サービスの概略を示します。これらの Netfinity サービスの詳細な使用方法については、*Netfinity マネージャー・ユーザーズ・ガイド* の各サービスの章を参照してください。

## アラート・マネージャー

アラート・マネージャーは、アプリケーションが生成したアラートを受信し、処理できる拡張可能な機能です。アラートに対応して、さまざまなアクションを取ることができます。アクションの例としては、アラートの記録、ユーザーへの通知、ほかのシステムへのアラートの転送、プログラムの実行、WAV ファイルの再生 (マルチメディア・システムでのみ使用可能)、SNMP アラート・メッセージの生成、デジタル・ページャーへのメッセージ転送 (モデムを装備しているシステムでのみ使用可能)、アプリケーションで定義したアクションの実行などが挙げられます。ユーザーは、高度な柔軟性をもつアクション管理インターフェースを使用して、アクションを定義することができます。

さらに、アラート・マネージャーが受信したすべてのアラートは、広範囲にわたる詳細なログとして保管されます。ログから入手可能な情報には、アラートを受信した日付と時刻、アラートのタイプと重大度、アラートを生成したアプリケーションの ID、アラート・マネージャーが生成したテキストやアラート・マネージャーが実行したアクションなどが含まれます。アラートは、個々に、または複数個同時にログから選択して、後日、参照するために印刷したり、問題の解決後にログから削除したりできます。このサービス・プログラムは、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## Alert on LAN 構成

Alert on LAN 構成サービスは、Alert on LAN 機能を持つシステムの監視オプションを、ローカルおよびリモートで構成するために使用します。Alert on LAN 機能を持つシステムは、システムの状態に関するクリティカル状況情報を提供します。データは、(システムの電源が現在オンであるかどうかに応じて) ハードウェアまたはソフトウェアによって、TCP/IP を使用して報告されます。

## キャパシティー・マネージャー

キャパシティー・マネージャーは、ネットワーク管理者用の使いやすい資源管理・計画ツールで、これを使用すれば、すべてのネットワーク上のサーバーをリモートからパフォーマンス監視することができます。

## クラスター・マネージャー

クラスター・マネージャーは、Microsoft Cluster Server (MSCS) 管理コンソールであるクラスター・アドミニストレーター機能 (Microsoft Windows NT 4.0 Enterprise Edition に組み込まれている) を拡張する目的で設計された、強力なアプリケーションです。クラスター・マネージャーは、MSCS を土台にして構築しており、ネットワーク上でクラスター化されているシステムの迅速かつ容易な監視および管理を可能にする、統合グラフィカル・インターフェースを提供します。このサービスは、Microsoft Windows NT 4.0 Workstation で稼働するシステムでのみ使用できます。

## クリティカル・ファイル・モニター

クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、ネットワーク内のシステムの重要なシステム・ファイルが削除または更新されたときに警告を受けられるようになります。クリティカル・ファイル・モニターによって、重要なシステム・ファイル (CONFIG.SYS ファイルなど) の日付、時刻、サイズが変更されたり、削除または作成されたりしたときに、Netfinity アラートを簡単に生成することができます。また、Netfinity システムに存在しているファイルは、すべてクリティカル・ファイル・モニターで監視することができます。

## DMI ブラウザー

DMI ブラウザーを使用すると、システムにインストールまたは接続されている DMI に準拠するハードウェア製品とソフトウェア製品に関する情報を調べることができます。

## ECC メモリー・セットアップ

ECC メモリー・セットアップは、ECC メモリーのシングル・ビット・エラーを監視し、エラーが検出されるとその ECC メモリーを自動的に“スクラブ” (修正) します。また、シングル・ビット・エラーのカウントを実行し、ECC シングル・ビット・エラーのしきい値を超えた場合に、マスク不能割り込み (NMI) を発生させるシングル・ビット・エラーしきい値を設定することができます。このサービス・プログラムは、ECC メモリー搭載のシステムであれば、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## イベント・スケジューラー

イベント・スケジューラーを使用すると、多くの Netfinity サービスを自動化することができます。イベント・スケジューラーを使用すると、ネットワーク上のすべての Netfinity システムで、システム情報ツール、システム・プロファイル、およびソフトウェア・インベントリーのデータの自動収集とエクスポート、ファイルの配布または削除、システムの再始動、コマンドの実行、およびシステム区画へのアクセスと管理を行うことができます。スケジュールされたイベントは、1 回のみ実行するか、あるいはユーザーが定義したスケジュールに従って実行することができます。

## ファイル転送

ファイル転送サービスを使用すると、ネットワーク上のリモート Netfinity システムとの間で、ファイルまたはディレクトリー全体を送受信したり削除したりすることができます。

## 電源オン・エラー検出

電源オン・エラー検出サービスを使用すると、リモート Netfinity システムの起動時に問題が発生すると直ちに警告を発生し、問題に素早く対応し、システムダウンの時間を最小限に抑えることを可能にします。

## 事前障害分析

事前障害分析 (PFA) サービスを使用すると、PFA 対応のディスク・ドライブを継続して監視、および管理することができます。PFA 対応のハードディスク・ドライブは、ドライブの問題や損傷を、それらが発生する前に検出したり予測したりできるようにハードウェアが設計されているので、データの損失や、システムダウンを防ぐために役立てることができます。

## プロセス・マネージャー

プロセス・マネージャーを使用すると、システム上で現在アクティブなすべてのプロセスに関する詳しい情報を表示することができます。また、プロセスを開始または停止したり、またはシステムの始動後、プロセスが開始または停止した場合、指定した時間内にプロセスを開始できなかった場合に、Netfinity アラートを生成したりすることができます。

## RAID マネージャー

RAID マネージャーを使用すると、保守のために RAID システムをオフラインにすることなく、**RAID** (Redundant Arrays of Independent Disk) アダプターおよび RAID アレイを監視、管理、および構成することができます。RAID マネージャーは、システムの RAID アレイと RAID アダプターに関するデータの収集、障害のあるドライブの再構築、論理ドライブの追加 (または削除)、データの保全性テストの実行、およびその他のさまざまな RAID システムのタスクを実行することができます。このサービス・プログラムは、RAID アダプターがサポートされているシステムであれば、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## リモート・セッション

リモート・セッションを使用すると、リモート Netfinity システムとの間で完全にアクティブなコマンド・セッションを確立することができます。

## リモート・システム・マネージャー

リモート・システム・マネージャーを使用すると、ネットワーク内のすべての Netfinity システムにインストールされているすべての Netfinity サービスにアクセスし、管理することができます。ネットワーク上の Netfinity システムは、簡単に管理できる論理グループに編成されていて、この論理グループは、自動検索機能を使用して自動的に更新することができます。

## リモート・ワークステーション制御

リモート・ワークステーション制御を使用すると、リモートの Netfinity システムのスクリーン表示を監視および制御することができます。他の Netfinity システムとのリモート・ワークステーション制御を開始すると、そのリモート・システムのディスプレイ上に表示されるイベントの監視、またはそのリモート・システムのデスクトップの制御を行うことができますようになります。リモート・ワークステーション制御を開始すると、ローカル・システム上でのマウスのクリックやキーボード入力は自動的にリモート・システムに送られます。リモート・ワークステーション制御を使用して、リモートからのプログラムの起動、ウィンドウのオープンまたはクローズ、コマンド入力、その他さまざまな操作が可能です。

## スクリーン・ビュー

スクリーン・ビュー・サービスを使用すると、リモート Netfinity システムのグラフィック画面の“スナップショット”をとり、画面に表示することができます。これらのスナップショットは、ビットマップとして保管し、あとで参照することができます。

## 安全保護マネージャー

安全保護マネージャーを使用すると、ユーザーの Netfinity サービスの一部または全体への無許可アクセスを防ぐことができます。このサービスは、着信ユーザー ID とパスワードの組合せを使用するもので、ネットワーク機能だけで使用可能です。

## シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、電話回線とモデムを介してリモートの Netfinity マネージャーから、システムにアクセスすることができます。シリアル接続制御サービスによって、ネットワークに接続することなく、Netfinity のリモート・システム・アクセス機能、監視機能、および管理機能を使用することができます。

注： シリアル接続制御サービスを使用するには、少なくとも 9600 bps をサポートするモデムをシステムに正しくインストールし、構成しなければなりません。

## サービス構成マネージャー

サービス構成マネージャーを使用すると、選択したシステムの Netfinity サービスの構成を、サービス構成ファイル (SCF) として保管することができます。SCF ファイルがいったん作成されると、イベント・スケジューラーでそれを使用して、構成を同じシステムに戻して復元することもできれば、それを (イベント・スケジューラーと共に) 使用して、他のどんな類似システムを選択した場合でも、選択した類似システムに構成を伝送することができます。



## システム管理

システム管理を使用すると、多くの機能をもつシステム管理アダプターの構成および監視を行うことができます。このサービスを使用すると、リモート・システムのシステム管理アダプターに対して、ダイヤルアウトまたは直接のアクセスおよび制御を行うことができます。システム管理を使用すると、システム管理アダプター・イベント (POST、ローダー、および O/S のタイムアウト、限界温度、電圧、およびタンパーのアラート、リダンダント電源障害など) を構成することができます。

## ソフトウェア・インベントリー

ソフトウェア・インベントリーを使用すると、システムにインストールされているすべてのアプリケーション・プログラムのインストール状況を簡単に保守するためのソフトウェア製品辞書を作成、管理することができます。

## システム診断マネージャー

システム診断マネージャーを使用すると、ROM ベースの診断をサポートしている他のシステムに対し、各種の診断タスクを開始することができます。以前実行したすべての診断セッションの結果がシステムに保存されているので、システム診断マネージャーを使用してこれを調べることができ、システムの問題の診断および解決に役立ちます。

## システム情報ツール

システム情報ツールを使用すると、システムのハードウェア構成およびソフトウェア構成に関する詳細情報に迅速かつ容易に取得できます。システム情報ツールは、ほとんどすべてのコンピューターに関する情報を収集しますが、IBMコンピューターで使用すると、特に詳細な情報が得られます。このサービス・プログラムは、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## システム・モニター

システム・モニターを使用すると、プロセッサの使用率、ディスク・スペースの使用率、ECC メモリーのエラーなどの、システム内の複数の構成要素の活動を簡単に図式化して監視することができます。このモニターは、非表示にしたり、サイズ変更が可能なため、常に必要なモニターだけを表示させることができます。システム・モニターのしきい値マネージャーを使用すると、監視対象の構成要素にしきい値レベルを設定することができます。しきい値を超えると、ユーザーが構成したアラートが生成されます。

データは、システムが始動してから継続して収集されます。この高精度なデータ処理技法は、個々の値に重みが付けられて、複数の並行するサンプルの平均値が算出され、長時間のシステム活動を正確に反映する値として記録するために使用されます。この技法を使用すると、膨大なデータ・ファイルを作成することなくシステムの活動記録を管理できます。このサービス・プログラムは、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## システム区画アクセス

システム区画アクセスを使用すると、ローカルおよびリモートの両方で、システム区画ファイルの処理を大幅に簡素化することができます。システム区画にある個々のファイルやディレクトリー全体の名前を変更したり、削除したりすることができます。個々のファイルは、名前の変更、削除、またはシステム区画へのコピーが可能です。また、区画全体のバックアップ、復元、削除も行えます。このサービスは、システム区画をサポートしているシステムであれば、スタンドアロン機能、ネットワーク機能の両方で使用可能です。

## システム・プロファイル

システム・プロファイルは、特定のユーザーまたはシステムに関するデータが記録されている便利なノートブックを提供します。ノートブックには、名前、住所、オフィス番号、位置、電話番号などの広範囲なユーザー固有のデータ用フィールドがあらかじめ定義されています。また、システム・プロファイルには、システム情報ツールでは提供されない、モデル、製造番号、購入年月日などを含むシステム固有のデータ用フィールドもあらかじめ定義されています。さらに、ユーザーや管理者に必要なあらゆるデータの保存に使われ、ユーザー自身が自由に定義できる“その他”フィールドも提供されています。

## Update Connector マネージャー

Update Connector マネージャーは、クライアント・システムで使用可能な各種更新に関する情報を、迅速、かつ容易に収集するために使用します。いったん、使用可能な更新を検出したら、Update Connector マネージャーを使用して、システムにリモートから更新を適用してください。個々のシステムに更新を適用することも、複数のシステムに複数の更新を適用することもできます。これらは、すべて Netfinity マネージャーから行います。Update Connector マネージャーを使用すると、以前に適用した更新を削除することもできます。Update Connector マネージャーには、定期的、自動的に更新を検出、適用、または削除するために使用できるスケジューラーも含まれています。

## Web マネージャー構成

Web マネージャー構成サービスを使用すると、Netfinity マネージャー (Web 用) へのアクセスを、ユーザーが指定した TCP/IP ホスト、またはある範囲内のアドレスを持つ TCP/IP ホストに制限することができます。また、Netfinity マネージャー (Web 用) を使用可能または使用禁止にしたり、Netfinity Web サーバー機能をオンにする TCP/IP ポートの番号を指定したりすることもできます。

## OS/2 システムでの Netfinity 始動の遅延

Netfinity ネットワーク・インターフェース (NETFBASE.EXE) の自動始動を遅らせた方が都合が良い場合があります。たとえば、開始時刻に制約のあるアプリケーションを正しく始動させたり、ネットワーク操作を開始する前にシステムを完全に構成したりする場合です。NETFBASE.EXE には、NETFBASE.EXE の始動待機時間の秒数を指定するためのパラメーター (WAIT) があります。

Netfinity のインストール時には、Netfinity ネットワーク・インターフェース・オブジェクトは始動フォルダーに入れられています。指定された秒数の間、始動前に待機するように Netfinity を構成するには、次のとおりにします。

1. Netfinity ネットワーク・インターフェースが実行されている場合は、遮断します。
2. 「始動」フォルダーをオープンします。
3. マウス・ボタン 2 を使用して、Netfinity ネットワーク・インターフェース・オブジェクトをクリックします。すると、Netfinity ネットワーク・インターフェースのコンテキスト・メニューがオープンします。
4. 「設定」ウィンドウを選択して、Netfinity ネットワーク・インターフェースをオープンします。
5. 「パラメーター」フィールドに、次のように入力します。

WAIT:x

x には、Netfinity ネットワーク・インターフェースが開始する前に待機する秒数を指定します。

6. Netfinity ネットワーク・インターフェースの「設定」ウィンドウをクローズします。

WAIT パラメーターを x に設定すると、システムを始動するたびに、Netfinity ネットワーク・インターフェースは x 秒間待機します。

注: この機能が使用できるのは、OS/2 が稼働しているシステムの場合だけです。

## 付録A. インストール・オプション

---

この付録では、Netfinity の自動インストールを実行する方法、およびカスタマイズされた Netfinity インストール・システムを作成する方法を説明します。

### 自動インストール

CID (Configuration, Installation, and Distribution) が使用可能なソフトウェア配布管理ユーティリティ (IBM Warp サーバーに同梱されている LAN CID ユーティリティなど) がある場合は、Netfinity インストール・プログラムのコマンドライン・パラメーターと応答ファイルを使用することにより、ネットワーク内の複数のシステムに Netfinity をインストールすることができます。まず、インストールに使用するインストール元ディレクトリーを作成します。

Netfinity クライアントサービスをインストールするためのインストール元ディレクトリーの作成は、次のようにします。

1. プログラム・ファイル用のインストール元ディレクトリーを作成します。
2. そのディレクトリーに、Netfinity CD-ROM 上の該当する *Netfinity* クライアントサービスのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、Netfinity クライアントサービス・プログラム (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成している場合は、*Netfinity* クライアントサービス (OS/2 版) ディレクトリーのファイルをすべて、作成したディレクトリーにコピーします。

Netfinity マネージャー・プログラムをインストールするためのインストール元ディレクトリーを作成するには、次のようにします。

1. プログラム・ファイル用のインストール元ディレクトリーを作成します。

**重要:**

マネージャー・プログラムのソース・ファイルよりも前に、Netfinity クライアントサービス・プログラムのソース・ファイルを必ずコピーします。*Netfinity* マネージャーのディレクトリーには、*Netfinity* クライアントサービスのディレクトリーからのファイルを上書きするファイルがいくつか含まれているためです。このディレクトリーからは、Netfinity マネージャー・プログラムのインストールのみが実行できます。

2. 該当する *Netfinity* クライアントサービス・プログラムのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、*Netfinity* マネージャー・プログラム (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成している場合は、*Netfinity* クライアントサービス・プログラム (OS/2 版) のディレクトリーのファイルをすべて、ディレクトリーにコピーします。

3. 該当する *Netfinity* マネージャーのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、*Netfinity* マネージャー・プログラム (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成している場合は、*Netfinity* マネージャー (OS/2 版) のディレクトリーのファイルをすべて、ディレクトリーにコピーします。

インストール元ディレクトリーを作成した後で、応答ファイルおよび *Netfinity* インストール・プログラムのコマンドライン・パラメーターを使用してください。*Netfinity* インストール・プログラムでは、下記のコマンドライン・パラメーターがサポートされます。

***/R:*** *drive+path+filename*

応答ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。組み込まれるパラメーターに注釈が付けられた応答ファイルの例として、NETFBASE.RSP ファイル (*Netfinity* がインストールされているディレクトリーにあります) を参照してください。

***/S:*** *drive+path*

インストール元 のドライブとパスを指定します。これは、CD-ROM ファイルのコピー先ディレクトリーとなります。

***/T:*** *drive*

インストール先 のドライブを指定します。デフォルトは現行の始動ドライブです。

***/TU:*** *drive+path*

更新する CONFIG.SYS ファイルのドライブおよびパスを指定します。デフォルトでは、*/T* パラメーターによって指定されたドライブ (または始動ドライブ) のルート・ディレクトリーにある CONFIG.SYS が変更されるようになっています。応答ファイルの *ChangeConfig* パラメーターが FALSE である場合には、このパラメーターは無視されます。

たとえば次の行では、

```
NETFINST /R:NETFBASE.RSP /S:Y:¥NETFIN  
/T:C /TU:D:¥
```

NETFBASE.RSP 応答ファイルのオプションを使用する Netfinity が、ディレクトリー Y:¥NETFIN から得られたファイルを使用してドライブ C にインストールされ、(ファイルのインストール先ディレクトリーは、応答ファイルから得られます)、D:¥ ディレクトリーにある CONFIG.SYS ファイルを修正することになります。

注: CID を使用できるソフトウェア配布マネージャーの使い方については、個々の CID 使用可能製品に添付されているマニュアルを参照してください。

## カスタマイズしたインストール

安全保護のために、すべてのユーザーがすべてのサービスにはアクセスできないようにすることができます。カスタマイズしたインストールを行って、一部のサービスをインストールしないようにし、ユーザー・アクセスを制限することができます。

カスタマイズしたインストールを行うには、INSTALL.INI ファイルを編集する必要があります。たとえば、カスタマイズした Netfinity マネージャー (Windows 95 または Windows NT 版) をインストールする場合は、Netfinity マネージャーのディレクトリーに入っている INSTALL.INI ファイルを編集します。

INSTALL.INI ファイルは、次の行によって 3 つのセクションに分けられています。

[==]

最初のセクションには、インストール中に選択できるインストール構成が入っています。選択項目は最大で 8 つです。各選択項目は、2 行からなります。最初の行は、インストール構成ラジオ・ボタンの隣に表示されるテキストです。2 行目は、その選択項目がインストールするように選択されたときにインストールされる 3 番目のセクションのオプションのリストです。

次に例を示します。

```

;IBM SysMgt Install Script, Version 2 (Do not remove this comment line)
Netfinity マネージャーのインストール [Manager 15000]
  システム管理サポート [ServProc 300]
  キャパシティー・マネージャー [CapMgt 6800]
  リモート・ワークステーション制御 [RWC 1100]
  Update Connector マネージャー (NT 4.0, TCPIP && Web ブラウザーが必要)[Cyber 2000]
  WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要) [WebManager 5000]
[==]
Netfinity マネージャ (Windows 95/NT 版) CD
[==]
NetFinity Admin
NULL Manager
  CL 0 1 NETFBASE.EXE
  CCL 0 1 NETDOM.INI
  CCL 0 1 NETNODES.INI
  CCL 0 1 INSTALL.BAT
  CCL 0 1 NETFINST.EXE
  CCL 0 1 INSTALL.INI
  CCL 0 1 WININST.HLP
  CCL 0 1 READ.ME
  CCL 0 1 TESTINS.DLL
  CCL 0 1 SECIN.INI
  CCL 0 1 SECOUT.INI
  CCL 0 1 ALACTION.INI
  CL 0 1 STRTBASE.EXE
  CL 0 1 STOPBASE.EXE
  CCL 0 1 NETDRVR.INI
  CCL 0 1 ECCMEM.INI
  CCL 0 1 PROFILES.INI
  CCL 0 1 MACTIONS.INI
  CCL 0 1 MONCRITF.INI
  CCL 0 1 MONTHR.INI
  CCL 0 1 NETMGR.INI
  CCL 0 1 MONSCH.INI
  CCL 0 1 WEBFIN.CFG
  CL 0 1 ICSM.DLL
  CL 0 1 APCKINST.DLL
;Screen Capture GUI
;NULL Manager
;   CL 106000 1 SAVEG.EXE
;   CL 106000 1 SAVEG.HLP

```



この INSTALL.INI は、システム管理、キャパシティー・マネージャー、リモート・ワークステーション制御、Update Connector マネージャー、および WWW 拡張機能もインストールする Netfinity マネージャー・インストール構成を作成します。

2 番目のセクションには、このスクリプトが使用する CD 名が入っています。

3 番目のセクションには、インストール可能なオプションのリストが含まれています。これらのオプションは、最初のセクションの選択項目によって選択されるものです。これらのオプションには、1 から始まる連続的な番号が付いています。したがって、何らかのオプションを挿入すると、それ以降のすべてのオプションの番号が変更されます。各オプションは以下の形式になっています。

*オプション名*

*D11 エントリー・ポイント*

オプション・ファイル

オプション・ファイル

...

インストール・コマンド

インストール・コマンド

...

*オプション名*

インストール・プログラムによって書き込まれる識別用注釈。すべてのオプションのオプション名は、異なっていなければなりません。これは、識別のためだけに使用されます。

*D11 エントリー・ポイント*

あるオプションがインストール先のコンピューターで有効かどうかを判別するために使用されます。多くの場合、これは予約文字列“NULL”となります。

インストールをカスタマイズする最も簡単な方法は、インストールから除去するサービスの前に、セミコロンを付けることです。

特定のセクションに項目行を追加するには、必要なすべての項目情報を、次の例に示す書式で追加します。

追加前:

```
Screen Capture GUI
NULL Manager
    CL 106000 1 SAVEG.EXE
    CL 106000 1 SAVEG.HLP
```

追加後:

```
Screen Capture GUI
NULL Manager
    CL 106000 1 SAVEG.EXE
    CL 106000 1 SAVEG.HLP
    CL 106000 1 CUSTOM.INI
```

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができま。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3 丁目 2-31

AP事業所

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

## 商標

本書において使用されている以下の用語は、米国およびその他の国における、IBM社の商標です。

アラート・オン LAN	DB2
IBM	Netfinity
OS/2	Predictive Failure Analysis
QMF	

本書において使用されている次の用語は、他社の商標です。

3Com	3Com Corporation
cc:Mail	cc:Mail, Inc. division of Lotus Development Corporation
Corel	Corel Corporation
EtherLink/MC	3Com Corporation
DMI	Desktop Management Task Force
IPX	Novell, Incorporated
Lotus Notes	Lotus Development Corporation
Netscape	Netscape Communications Corporation
NetWare	Novell, Incorporated
Novell	Novell, Incorporated
SMC	Standard Microsystems Corporation
Sportster	U. S. Robotics Corporation
U. S. Robotics	U. S. Robotics Corporation

Java、および Java に基づくすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Tivoli は Tivoli Systems の商標です。

これら以外の会社、製品、およびサービスの名前にも、他社の商標またはサービス・マークがあります。

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## 〔ア行〕

- アラート・マネージャー 50
- 安全保護マネージャー 54
- イベント・スケジューラー 52
- インストール・オプション 16
  - カスタマイズしたインストール 61
  - キャパシティー・マネージャーのインストール (Windows NT の場合のみ) 16
  - 更新コネクタ・マネージャー 16
  - システム管理サポートのインストール 16
  - 自動インストール 59
  - 選択可能インストール・オプション 16
  - リモート・ワークステーション制御のインストール 16
  - WWW 拡張機能 16
- インストール・プログラム 11
- インストール・プログラムの始動 11

## 〔カ行〕

- カスタマイズしたインストール 61
- キーワード
  - インストール時の割当て 20
  - システム 20
- キャパシティー・マネージャー 50
- 「強制リモート・ログオン」 20
- クラスター・マネージャー 51
- クリティカル・ファイル・モニター 51
- 構成マネージャー 54

## 〔サ行〕

- 「サービス実行アラート」 20
- サービスの除去 61
- サービス・プログラムの説明、Netfinity 49
- システム区画アクセス 56

- システム情報ツール 55
- システム要件
  - Microsoft Windows 95
    - OS/2 5
    - Windows NT 9
  - システム・プロファイル 56
  - システム・モニター 56
  - 事前障害分析 52
  - 自動インストール 59
  - シリアル接続制御 54
  - スクリーン・ビュー 54
  - ソフトウェア・インベントリ 55

## 〔タ行〕

- データベースのサポート
  - DB2 24
  - Lotus Notes データベースのサポート 33
  - ODBC 37
- ディレクトリー 35
- 電源オン・エラー検出 52
- ドライバー、ネットワーク 18

## 〔ハ行〕

- 表記規則 4
- ファイル転送 52
- プロセス・マネージャー 52
- 編集、INSTALL.INI の 61

## 〔ラ行〕

- リモート
  - システム・マネージャー 53
  - セッション 53
  - ワークステーション制御 53
- ロードマップ 3

## A

Alert on LAN 構成 50

## C

CID インストール  
    コマンドライン・パラメーター 60

## D

DB2 データベースのサポート 24  
DMI ブラウザー 51

## E

ECC メモリー・セットアップ 51

## I

INSTALL.INI の編集 61

## L

Lotus Notes データベースのサポート 33

## M

Microsoft Windows 95  
    Windows 95 7

## N

Netfinity  
    インストール 11  
    カスタマイズしたインストール 61  
    サービス・マネージャー 48  
    システム要件 5  
    始動 47  
    自動インストール 59  
    説明 1  
    CID インストール 59  
    OS/2 システムでの始動の遅延 58

Netfinity オプション  
    「強制リモート・ログオン」 20  
    「サービス実行アラート」 20  
Netfinity の始動 47

## O

ODBC データベースのサポート 37  
OS/2 システムでの Netfinity 始動の遅延 58

## R

RAID マネージャー 53

## U

Update Connector マネージャー 57

## W

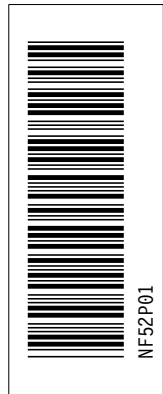
Web マネージャー構成 57  
Windows NT 9



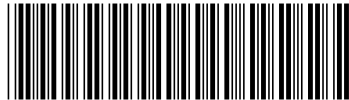
# IBM

部品番号: NF52P01

Printed in Japan



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6554-00